

平成30年度第2回宇都宮市地産地消推進会議 会議録	
日 時	平成30年7月17日(火) 午前10時30分～正午
場 所	市役所3階 議会棟第2委員会室
出席者	(委 員) 志賀会長, 篠崎委員, 上野委員, 山口委員, 塩井委員, 田野邊委員, 田村委員, 店橋委員, 増淵委員, 佐藤委員, 松本委員, 星野委員, 若林委員, 小林委員, 根本委員 (15名) (事務局) 大島課長, 大家補佐, 大島係長, 石川総括, 河野主任主事, 手塚主任主事, 田崎主事, 杉山係長, 坪井主任, JA 大塚課長 (10名)
欠席者	福田委員, 小林委員, 石原委員, 金枝委員, 市川委員
公開・非公開の別	公開
傍聴者	0人
内 容	
	次第1 開会 午前10時30分(進行:大島係長)
	次第2 委員紹介及び会議録署名委員の選定 (会議録署名人を松本委員, 若林委員とすることで決定)
事務局(杉山)	次第3 報告事項 ・「第2次宇都宮市食料・農業・農本基本計画」の見直しについて 【事務局説明】
事務局(石川)	次第4 議事 ・「第2次宇都宮市地産地消推進計画」の見直しについて 【事務局説明】
篠崎委員	・買う方の意識を重要視すべきである。雀宮地区では, 地場農産物を学校に取り入れており, また生産者のところに体験しに行く等積極的に行っている。 ・販売については, 量販店のコーナーは宇都宮産だけでは見栄えがないので, 栃木県産と連携して規模を大きくしてもよいと思う。 ・情報発信については, スマートフォン等を活用していくべき。 ・健康ポイント制度も開始されたし, 地産地消においてもポイント制があるとよい。 ・LRTの車両基地に道の駅のような場所を作るのもよい。
志賀会長	・学校給食においては, 県との連携も大切。 ・若い世代へのアプローチ方法を検討すべき。 ・LRTも一つの働きかけとしてはよいと思う。
山口委員	・農産物を購入する際に地場産を基準とする人の割合が下がっているのはなぜか検証しているか。

事務局 (石川)	<ul style="list-style-type: none"> ・検証まではできていないが、このアンケートの内容について、農産物を購入する際に、鮮度を基準とする人が一番多いことから、鮮度と地場産をうまくからめていきたい。
塩井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施する時期にもよると思う。
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそもなぜ地産地消が必要なのか。 ・基本計画の計画期間が10年とあるが、ライフスタイルの変更等将来を見据えるべき。
事務局 (石川)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者・生産者それぞれの地産地消の意義を説明。 ・ライフスタイルの変更等, 将来を見据えることは重要であると認識している。
志賀会長	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市産を充実させ、買いやすい環境づくりが大切。
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鮮度が良い、生産者の顔が見える等の地産地消のメリットの他、子ども、若い親世代等を中心に、農地を維持していくことの大切さも伝えるべき。
増淵委員	<ul style="list-style-type: none"> ・農業王国うつのみやを知っている人はどれくらいいるのだろうか。 ・取組状況で進んでない箇所を見ていくと、広報活動が進んでいない箇所のようにある。広報活動が大切なのに、残念である。
事務局 (石川)	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動は大切だと思う。今後も、世代別、ターゲット別に工夫して実施する。
志賀会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に理解してもらえる機会を増やすべき。
松本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消という言葉は浸透しているが、地産地消の仕組みを分かりやすく伝える必要がある。 ・生産者が地産地消だけで食べていけるのか。出口を考えるとともに、生産を強化すべき。 ・時代が変化する中で、消費活動の流れ、仕組みも変化していかなければならない。ポイント制や地域通貨制度を導入することや、宇都宮市産を消費し、農業を応援する楽しさを伝えていくべき。
事務局 (石川)	<ul style="list-style-type: none"> ・出口の部分は重要な課題と認識しているので、検討していきたい。ポイント制度等についても、検討したい。
志賀会長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における安全安心が重要。GAPや生産履歴の取組を積極的にやろうとする意識が必要。安全安心なシステム作りを行うことで、地産地消につなげるべき。 ・地産地消を進めるにあたっては、グローバル化等に対応するためにも生産振興も強化すべき。

事務局（石川）	<p>次第5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のスケジュールについて ・うつのみや地産地消推進店マップの案内 ・大谷夏いちごカクテルキャンペーンの案内 <p>【事務局説明】</p> <p>次第6 閉会</p>
	書記：事務局（農林生産流通課農産物マーケティンググループ河野・田崎）

会議録について署名いたします。

平成30年 8月 8日

会議録署名人 松本 謙 ⑩

会議録署名人 若林 二三夫 ⑩